【ご参考資料】

2014年1月16日

1月15日発表のブラジルの政策金利の引き上げについて

政策金利を10.0%から10.5%に引き上げ

2014年1月15日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.5%引き上げ、年率10.5%とすることを全会一致で決定しました。利上げ自体は概ね市場予想に沿うものですが、利上げ幅については、0.25%を予想する向きが過半であったのに対し、それを上回る結果となりました。同中銀は昨年4月の金融政策決定会合以降、7会合連続で政策金利を引き上げており、利上げ幅は計3.25%となります。

同中銀は金融引き締めスタンスを継続

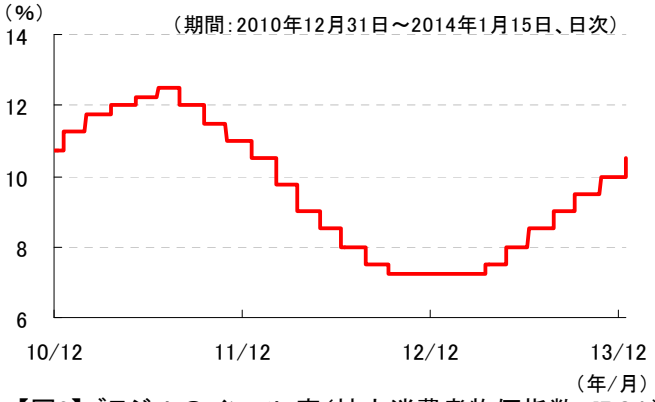
今回の決定の背景には、同中銀がインフレに対する警戒感を緩めていないことがあります。同中銀は昨年1年間で政策金利を計2.75%引き上げ、年率10.0%としました。この結果、インフレ率は昨年7月以降、低下傾向にあったものの、12月のインフレ率は5.91%と、前月の5.77%を上回りました。これを受け、今回の決定について、同中銀は利上げペースを減速できなかったものとみられています。

しかし、利上げ局面が近く終了するとの見方も、市場にはあります。トンビニ総裁は先月、2014年のインフレ予想を下方修正し、当局がすでにインフレ抑制に向けた政策の大半を終えたことを示唆しました。

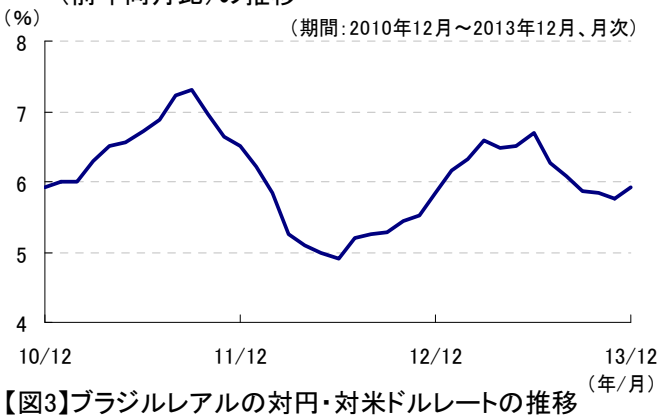
1月15日の外国為替市場では、ブラジルレアルが対米ドルで前日比0.2%程度のブラジルレアル高、対円で同ほぼ横ばいとなっています。

次回の金融政策決定会合は2014年2月25-26日（政策発表は日本時間2月27日）の予定です。

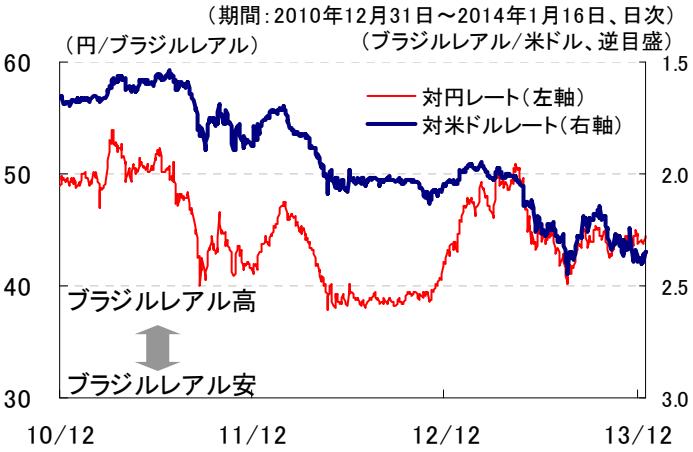
【図1】ブラジルの政策金利の推移



【図2】ブラジルのインフレ率（拡大消費者物価指数、IPCA）（前年同月比）の推移



【図3】ブラジルレアルの対円・対米ドルレートの推移



※2014年1月16日は日本時間9時頃の値

（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。